平成２６年度　全国学力・学習状況調査の結果の公表について

平戸市教育員会

Ⅰ　調査の概要

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

２　調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。

○ 小学校調査…小学校第６学年、特別支援学校小学部第６学年

○ 中学校調査…中学校第３学年、特別支援学校中学部第３学年

３　調査内容

（１）教科に関する調査

【国語Ａ　算数・数学Ａ】	【国語Ｂ　算数・数学Ｂ】
主として「知識」に関する問題 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした問題	主として「活用」に関する問題 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした問題

（２）質問紙調査

児童生徒に関する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査を実施	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

４　調査日

平成２６年４月２２日（火）

５　平戸市の調査実施校及び児童生徒数

（１）実施校数

小学校　１７校　　中学校　９校　　計２６校

（２）参加児童生徒数

小学校６年生　　２７０人

中学校３年生　　３５３人

Ⅱ　平戸市の結果の概要

1　平均正答率の全国との比較

校　種	小　学　校				中　学　校			
教　科	国　　語		算　　数		国　　語		数　　学	
領　域	A	B	A	B	A	B	A	B
結　果	＋		＋					

※結果「＋」…平戸市の平均正答率が全国平均正答率以上のもの
※領域「A」…主として知識に関する問題　「B」…主として活用に関する問題

2　各教科別の成果と課題及び改善策

【小学校】

教科・領域	成果（○）と課題（●）及び改善策（※）
国語A	○　漢字を正しく書いたり読んだりすること ●　故事成語（百聞は一見にしかず）の意味や使い方を正確に理解すること ●　情景描写の効果を捉えること ※　改善策として、故事成語に興味や関心をもち、自分の表現に活用できるよう指導を工夫したり、登場人物の相互関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されているものもあることを捉えることができるよう指導する。
国語B	○　詩の表現の工夫（擬声語）を捉えること ●　自分の立場を明確にして質問や意見を述べたり、分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係づけながらまとめて書いたりすること ※　改善策として、相手の意見を引用したり根拠となる事実を明確にしたりして話すことができるように指導する。また、児童が主体的に必要な情報を収集し整理する中で、自分の考えの広がりや深まりを実感できるよう指導する。 授業の中で「書く」活動を取り入れる。
算数A	○　基本的な整数、小数、分数の計算すること ○　基本的な円周、直方体の体積を求めること ●　コンパスを使った平行四辺形の作図に用いられている平行四辺形の約束や性質を理解すること ●　割合が１より小さい場合でも比較量の求め方が（基準量）×（割合）になることを理解すること ※　改善策として、作図の手順を図形の特徴と対応付けて理解できる

	よう指導する。また、割合（倍）が整数である場合の計算の考え方を基にして、乗法の意味を拡張し、理解を深めるよう指導する。
算数Ｂ	○　計算の結果の見通しをもって計算したり、示された場面から基準量と比較量を捉え倍を求めたりすること ●　示された情報を基に量の大小を判断し、その判断の理由を数学的に表現すること ●　示された情報も基に、筋道を立てて考え、その求め方を数学的に表現すること ※　改善策として、数量の大小を判断した根拠を説明する際には、比較する対象を明確にして考えることを指導する。また、示された情報を整理して、筋道を立てて考え、求め方を言葉や式を使って説明できるようにする。

【中学校】

教科・領域	成果（○）と課題（●）及び改善策（※）
国語Ａ	○　語句の意味を理解して文脈の中で適切に使用すること ●　同音異義語の漢字を書いたり、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討したりすること ※　改善策として、家庭学習の中で復習として行われる「繰り返し学習」を通じた知識の確実な定着への取組を行う。また、話し合いを行う際には、それぞれの意見の共通点や相違点を整理して対照的な内容をわかりやすく示すように指導する。
国語Ｂ	●　複数の資料から必要な情報を読み取ること ●　読み取った事実や事象が明確に伝わるように書くこと ※　改善策として、説明的な文章の特徴を踏まえて資料を読むこと、複数の資料から必要な情報を読み取ること、伝えたい事実や事柄を明確に説明することの「読む力」「書く力」を重点的に強化していく。
数学Ａ	○　線対称な図形をかくこと ○　数量を文字式で表すこと ●　円柱と円錐の体積の関係を理解すること ●　反比例についてグラフと関連づけて理解すること ※　改善策として、円柱と円錐の体積の関係を問う選択式問題については、柱体と錐体の体積の関係を予想し、模型を使って実験による測定を行って確かめるなど、実感を伴って理解できるよう指導する。 反比例については、表やグラフから比例定数を読み取って式に表したり、比例定数の符号や絶対値の違いによる変化の様子の違いを捉えたりする活動を取り入れる。
数学Ｂ	○　日常的な事象を表した図を観察し、空間における位置に関する情報を適切に読み取ること ●　付加された条件下で証明を考えて事柄を用いる図形に関する問題やグラフの特徴を事象に即して解釈して説明する関数に関する問題、

	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えて説明する資料の活用問題など、記述式の問題を解くこと ●　記述式問題では、無回答が多いこと ※　改善策として、「図形」「関数」「資料の活用」の正答を導く際の思考の過程を大切にして確実な知識・理解の定着を図るとともに、解き方を説明できるようにする「数学的な見方や考え方」を重点的に強化する。

3　児童・生徒質問紙による児童・生徒の特徴

（○：よい状況　●：改善を要する状況）

○　昼休みや放課後に本を読んだり、借りたりするために学校や地域の図書館に行く割合が全国平均を上まわっている。
○　「いじめはどんな理由があってもいけない」と思っている児童生徒の割合が非常に高い。
○　「地域の行事に参加している」割合が高く、特に中学生の参加が全国に比べて大きく上まわっている。
○　「読書は好き」と答える小学生の割合が全国平均を上まわっている。
●　「４００字詰原稿用紙２～３枚の感想文や説明文を書くことは難しい」「国語が好きではない」小学生の割合が全国平均より高い。
●　全教科において「調査問題の解答時間が不足している」と答える児童生徒の割合が全国平均より高い。
●　新聞を読んでいる児童生徒の割合が全国平均を下回っている。

4　児童生徒の学習・生活習慣と学力の関係

次の児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

【児童】
「毎日、同じ時間に寝ている」
「家で自分で計画を立てて勉強をしている」
「学校のきまりを守っている」
「友達に伝えたいことをうまく伝えることができる」
「家で学校の復習をしている」
「授業の中で自分の考えを発表する機会を与えられていたと思う」

【生徒】
「読書が好き」
「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」
「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている」
「文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる」

Ⅲ　平戸市の今後の取組

１　各学校の調査結果及び市全体の調査結果の集計と分析、各種資料の作成

２　各学校での『学力向上プラン』の作成と実践及び検証

３　校長研修会・教頭研修会での学力向上に関する指導

４　教務主任研修会・研究主任研修会等での学力向上に関する研修及び指導

５　ＩＣＴ機器の効果的な活用に関する教職員の研修とＩＣＴ機器の導入計画立案